

特別史跡 加曾利貝塚 平成30年度発掘調査結果説明資料

I. 調査の概要

調査期間：平成30年8月7日～11月24日（日・月曜日・祝日休み）

準備工7月30日～8月6日、撤去工11月26日～12月10日。雨天中止16日間。実働77日間。

調査面積：700㎡（25m×28m）

調査地点：南貝塚北東部

調査体制：調査員2名、作業員約7名（延566名）、ふるいがけボランティア（延約111名）

II. 調査の目的

- ①. 平成29年度東半を調査した85号竪穴住居跡の西半も調査を行い、住居跡の構造を把握する。
- ②. 昭和39年の旧IV・Vトレンチの埋土を再発掘し、『総括報告書』の「未報告遺構5」の確認を行う。
- ③. 発掘調査の中長期計画策定のための情報を得る。

III. 調査の成果

- ①. 85号竪穴住居跡の構造把握に関する成果
 - ・調査した竪穴住居跡は径6.5～7.0mの円形をなす。
 - ・柱穴は壁柱穴と支柱穴からなる。南側に出入口が存在する。
 - ・時期は晩期前半（安行3b式期）。
- ②. 旧IV・Vトレンチの再発掘および「未報告遺構5」の確認に関する成果
 - ・未報告遺構5は径が12mを超える不整形円形をなす。竪穴住居跡の可能性が高い。覆土中に貝層が存在する。時期は晩期前半。
 - ・溝状遺構1条が未報告遺構5の上に存在する。
 - ・旧Vトレンチにて『総括報告書』の「92号人骨」の一部が検出された。人骨は85号竪穴住居跡より古い。
 - ・土坑が3基存在する。旧IVトレンチ3区にある2基は、『総括報告書』の「未報告遺構3」「同4」である。「未報告遺跡4」の覆土中には貝層が存在する。
- ③. 発掘調査の中長期計画策定のための情報取得に関する成果
 - ・地表下0.3mに、縄文時代晩期を中心とする黒色の遺物包含層が存在し、その下位に縄文時代後期の遺物を包含する土や貝層が存在することが確認された。

IV. 発見された遺構と遺物

遺構：竪穴住居跡（縄文時代晩期前葉）、溝、土坑、貝層

遺物：縄文土器（中期・後期・晩期）、土製品（耳飾り・土偶）、石器（石鏃・石斧・石錘・石剣・垂飾品）、骨角器（刺突具）、人骨、獣骨、魚骨

V. 普及活動

- ・調査状況は加曾利貝塚博物館ホームページ（毎日更新）にて配信
- ・現地掲示板（毎週更新）にて調査概要・成果・予定を公表
- ・調査担当者による現地説明（毎日14:00～14:15）
- ・縄文秋まつり現地説明 11月3日（土）
- ・現地説明会11月24日（土）10:00～15:30 550名参加
- ・ふるいがけ体験 8月18日～11月17日の間の土曜日 延べ12日 14:15～15:00 248名参加